MESSAGE
メッセージ

新年度を迎えて——新学長のご挨拶と新理事・新副学長の紹介

学長 郷 通子（ごう みちこ）

お茶の水女子大学理学部卒業、名古屋大学大学院理学研究科博士課程修了。コーネル大学化学科博士研究員、名古屋大学理学部生物学科教授、長浜バイオ大学生命情報科学部学部長を歴任。理学博士。
▶研究分野：生命情報学、予測生物学、生物物理学

新学長のご挨拶

本田和子前学長の後任を、この4月に引き継ぎました。43年前に巣立った母校に迎えていただいたことは、ほんとうに予期せぬ出来事でした。共学の大学で教鞭をとってきた経験を、法人化後のお茶大の運営に活かしていきたいと考えております。

お茶の水女子大学は、東京女子師範学校としてスタートしてから、今年は、節目となる130周年記念を迎えます。長い間、女性の最高の教育機関として、優れた女性を数多く世に送り出してきました。この伝統は現在でも色濃く生きており、文部科学省の審議会などの女性メンバーの多くが、お茶大関係者であることに、驚きを新たにしています。

法人化後のお茶大は、現代の世に必要とされる個性あふれる女子大として、その教育研究力と卒業生の残された知的資産、それに加えて附属学校園のもつ教育力を礎に、生まれ変わります。

今秋に予定されている130周年記念事業の折には、是非、冷暖房の完備した本学の講堂 徽音堂（きいんどう）をおたずねください。こころよりお待ちしております。

新理事・新副学長

久保田 紀久枝（くぼた きくえ）
▶担当：学内理事・副学長
教育機構長
▶研究分野：食品化学
【ひとこと】
「学生生活を支える縁の下の力持ちとして、機構全員で日々奮闘しています」

和田 昭允（わだ あきよし）
▶担当：学外理事
▶研究分野：生物物理
【私の好きな言葉】
「月を思うものは花を作り、年を思うものは木を植え、代を思うものは人を育てる／野口遵」

柴田 文明（しばた ふみあき）
▶担当：学内理事・副学長
国際・研究機構長、センター部長
▶研究分野：理論物理学（量子非平衡統計力学、量子情報理論）
【ひとこと】
「世の中とあまり関係のない基礎研究をやっています。役に立つ、立たないは、自分で決めることではないようです」

内田 伸子（うちだ のぶこ）
▶担当：学内理事・副学長
総務機構長
▶研究分野：発達心理学、認知心理学
【ひとこと】
「本学キャンパスに住む全ての人たちが幸せに自己実現していけるよう、人的・物的環境に目配り・心配りをしたいと考えています」

羽入 佐和子（はにゅう さわこ）
▶担当：副学長、学術・情報機構長
附属図書館長
▶研究分野：哲学
【ひとこと】
「大学の豊かな知的情報を丁寧に発信したいと考えています」

ワンガリ・マータイさんに本学名誉博士称号を授与

お茶の水女子大学では、平成17年2月19日、ワンガリ・マータイさん（ケニア共和国環境天然資源野生生物省副大臣）に本学で6人目となる名誉博士称号を授与しました。マータイさんは、1977年から27年間にわたり、アフリカでの植樹計画「グリーン・ベルト運動」の推進者です。この運動は、貧困に加え、環境破壊が進むアフリカで、仕事のない貧しい女性を集め、７本の植樹活動からスタートし、現在までにアフリカの20か国以上で約3000万本が植林されました。こうした功績により2004年にアフリカ女性初のノーベル平和賞を受賞しています。環境、人権、女性の権利に積極的に取り組むマータイさんの活動は、本学が推進する女性の役割モデルにふさわしいものです。

名誉博士称号の授与式では、「女性の大学であるお茶の水女子大学より、名誉博士称号を頂いたことは、私にとって意義のあることであり、大変感謝しております。また日本語に“モッタイナイ”という言葉があるのを知り感動しました。」と謝意を述べられました。（文責:編集委員会）

授与式におけるワンガリ・マータイさん

湯浅年子記念特別研究員の帰国報告

佐々木成江さん（本学大学院人間文化研究科遺伝カウンセリングコース講師）が第1回湯浅年子記念特別研究員として5か月間のフランス滞在を終え、昨年9月に帰国されました。これを受けて3月4日に帰国報告会が開催されましたが、佐々木さんの研究はルイ・パスツール大学（ストラスブール）において「亜ヒ酸酸化酵素遺伝子の発現制御」に関するものでした。

現在、アジア全体で飲料水として利用されている地下水のヒ素汚染が深刻な問題となっています。佐々木さんの研究は、この問題を安全で安価である生物学的なアプローチにより解決するための重要なステップとなるものです。「湯浅年子記念特別研究員」制度は、第二次世界大戦を挟む世界情勢の極めて厳しい時期、パリにあって国際的な活躍をした女性物理学者で、本学卒業生でもある湯浅年子博士の業績を記念して発足したものです。フランス政府より給費留学生として、6か月間の滞在費と往復の航空運賃が支給された他、滞仏中の研究費30万円が贈られました。写真はその報告会のときのものです。（文責:永野肇　理学部）

帰国報告をする佐々木成江さん